

# Akatake Times

Vol. 57  
(通算 第210号)



10月は昼夜での寒暖差が大きく服装選びに困りましたね。  
今年は温暖でそんなに寒くないらしいですが本当でしょうか？  
いずれにしても風邪をひきやすい時期なので皆さんお気をつけて！！



『サンクチュアリー・オブ・トゥルース in Thailand』

1981年8月13日より未だ建設が完成せず、現在進行形で進められている建築物です。  
職人によって数種類の広葉樹から精巧に彫刻され、金属の釘を一切使わず建てられています。  
中にも入れるのですが、その道中でも職人さんが至るところで彫刻刀で掘っていました。  
これが「真実の聖域＝サンクチュアリー・オブ・トゥルース」です！  
本題に入りますが、英語でガイドしてれたお姉さんがめちゃくちゃ美人でした！

撮影日：2023年9月11日 匿名



### ◆静岡県人の県民性って

のんびりしていてマイペース、温厚、恥ずかしがりや、優柔不断、他力本願、サッカー好き…  
みなさんは、静岡の県民性ってどんな印象を持っていますか？

先日新聞のコラムのある記事が目にとまりました。

筆者が参加した山梨県民と静岡県民が集まった、とあるフォーラムの後、意見やクレームを多く寄せたのは山梨県サイド。かといって静岡県側に異論がなかったわけではなさそうで、よくよく聞いてみると、実は筆者の耳に届かないところで、いろいろな意見が出ていたことが判明。

この行動の違いは、単刀直入で積極性のある山梨県人とシャイで消極的な静岡県人という県民性ゆえかというような記事でした。

確かにいまだかつて総理大臣も輩出していないし、有名芸能人も一世を風靡したピンクレディーが出るまでは皆無に等しかったことを思えば、目立つことを得意としない静岡県人の気質ゆえかとも納得してしまいます。

また、県内で行われるライブに行くと、客席から大声が聞こえることが少なく、ミュージシャンからも、レスポンスが薄くノリが悪いとよく言われたようです。

私自身生粋の静岡県人ですので、若い時はそんなものかな～という感じでしたが、年を重ねていくと、もう少し自己主張したほうがいい場面に出くわすことが増えてきました。

プライベートでは内弁慶でも問題ありませんが、仕事となるとそうはいかないからです。

仕事には、慎重さと同時に決断やアクションを素早くし対応する場面も求められることが多々あります。みなさんも、「あ～あの時に言っておけばよかった！」なんて経験ありませんか？

会議や打ち合わせもしかり、問題提起されたらダンマリを決め込むのではなく、解らなくても

解らないなりに、いまの自分の立ち位置での感想なりを発言しないと、その先の進展はありません。我が社でいえば、他部署の問題でもみんなが他人事と思わず、アイデアを出し合うことで、自部署

で気付かなかったことが見えたり、解決の糸口が見えてくる可能性もあるからです。これは静岡県人に限らず言えることですが、自分の殻を破って言動することが、大事なような気がします。

時間は有限です。あとでと思うそのあと…は、訪れないかもしれません。

みなさんのアクションひとつが、風通しのいい環境をつくることに繋がるのでは…と、コラムを読んで思った次第です。

さあ、みなさんも静岡県人の殻を少しだけ破ってみては？

### ◆地球が沸騰？

いや～、今年の夏は暑かった！

分かっているものの暑い暑いと、この言葉を何度口にしたことか…。

全国的にも災害級の猛暑日が記録され、三島では8月すべての日で30℃超え、猛暑日も5日もあったとか。9月下旬でも30℃超えの残暑が続いていました。

一向に秋の気配を感じる事のない9月は、近い将来夏に分類されるかもしれませんね？

7月国連事務総長のアントニオ・グテレス氏が「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来した」と警告したニュースは記憶に新しいと思います。

煮えたぎった地球での生活なんて想像しがたいし、人類が生存できるとも思えません。

今年も、突然の線状降水帯による河川氾濫やゲリラ豪雨、かつての台風とは異なる自然現象に振り回されていますが、この異常気象も二酸化炭素やメタンといった温室効果ガスが増加しすぎたことが原因とされています。世界的にも、再生可能エネルギーの開発や電気自動車の促進など、脱炭素社会を目指して活動していますが、すでに手に負えない状態まで進んでしまったのでしょうか！？

とはいえ、一個人一企業のできることは限られています。今まで通り地道に省エネ・脱プラ・ゴミの削減などに取り組んでいくことしかありませんね。

地球が沸騰しない未来を祈るばかりです。